保篠龍緒探偵小説選Ⅱ 目

次

結婚の贈物		裸屍事件	夜怪乱陣	闇の魔人	深夜の陀羅尼経	魔の列車	山又山	愛国魔人	白狼無宿
204	2022	265	240	221		2006	107	120	
294	283	265	249	231	220	206	187	120	2

保篠龍緒著作目録(矢野 歩・編)	【解題】 矢野 歩	ルパンの悪癖	私はやはり「ルブラン」だ	ルブラン研究	アルセーヌ・ルパンの映画化
335	328	325	322	309	302

#### 凡 例

、「仮名づかい」は、「現代仮名遣い」(昭和六一年七月一日内閣告示第一号)にあらためた。

底本の表

漢字の表記については、原則として「常用漢字表」に従って底本の表記をあらため、表外漢字は、

難読漢字については、現代仮名遣いでルビを付した。

記を尊重した。ただし人名漢字については適宜慣例に従った。

あきらかな誤植は訂正した。

極端な当て字と思われるもの及び指示語、副詞、接続詞等は適宜仮名に改めた。

の価値に鑑み、修正・削除はおこなわなかった。

、今日の人権意識に照らして不当・不適切と思われる語句や表現がみられる箇所もあるが、時代的背景と作品

作品標題は、底本の仮名づかいを尊重した。漢字については、 常用漢字表にある漢字は同表に従って字体を

あらためたが、それ以外の漢字は底本の字体のままとした。

創作篇

## 白狼無宿

# 血染の短剣

の各新聞紙を片手に摑み、 青山警視総監は日課にしている冷水浴を終えて、都下 爽やかに晴れて、長閑な初秋の朝、 のとか 葉巻をくわえて書斎の方へ悠

然とあるいて行った。 珈琲は書斎へ」

ッ!」といって総監は棒立ちに突立った。 鍵を廻して扉をあけて一歩書斎へ入るや否や、「ウ

持っていた新聞紙を傍の長椅子の上へバサリと投げ出 ツカツカと室の中央にある大卓子の前へ小走りに

突立ったままじっと見下した大卓子の上! 「ウーム。何じゃ、これは?」

> して精巧な小型ピストルが一枚の封筒の上に載せてある。 しかも短刀に刺し留められてあるのが生々しい小指、そ 見よ、そこには卓子の中央に突き刺さった両刃の短刀、 2

「フーム」

廻した。窓という窓は堅く閉められてあり、四辺には何 再び唸った総監、さすがに周章た様子もなく室内を見

等取り乱した態もない。

コツコツ、女中が珈琲を持ってきたらしく、扉を叩

た声でいった。「珈琲は応接間へ持って行け」 「入っちゃいけない、用事が出来た」と総監が落付

だ。 「もしもし刑事部長へ……坂上君か……青山 彼は静かに卓上の電話機を取上げた。警視庁への直通 じゃ。

長外係員同道で、直ぐ官邸へ来てくれ……ウム、ちょっ ……急用が出来たから、恒川係長外刑事、それに指紋係

とした事件じゃ。……いやいや被害があったのではない

ではない……あるいは悪戯かもしれん、脅迫かも知れん ……妙なものが飛び込んで来たのじゃ……いや、危険物

なって坂上部長以下どやどやと車から飛び出した。 が……まあ、ちょっと来て見てくれ給え……」 数分。例の警視庁の×××号自動車が玄関へ横付けに

「いや、御苦労々々」と青山総監はニコニコしながら

「可事うつ・・・・

出迎えた

「何事が? ……」

て見てくれ」
「まあまあ」と青山総監が制して「とにかく書斎へ来

ドヤドヤと書斎へ入った。各係長、それに恒川警部の片腕加川刑事その他の連中が坂上刑事部長、恒川強力犯係長、吉井指紋、金水写真

あれじゃ」

書斎の入口に一同を立たして指した、大卓子の上。

坂上、恒川、加川がグルリと大卓子を取りまいて、ジ血染の短刀と生々しい小指とピストルと!

ッと無言のまま見詰めた。

室内は重い沈黙におちた。

「一枚、撮っておきましょう」

金水係長がいいながらカメラを据えた。

「指紋も頼む

吉井係長は課員と一所にまず短銃を調べ初めた。

短刀にも短銃にも何等指紋らしいものすら現れて来な

かった。

「脅迫状じゃろう」「この封筒は?」

用箋に邦文タイプで打ってあった。
刑事部長が開いて見た。クリーム色の薄い日本紙風

(D

青山警視総監閣下。

彼等が我国風を乱し、我思想を擾すを防止膺懲せんが 来りたる我白狼団は、 暴戻なる富豪、 に等しきあらゆる暴力手段を以て、 ため、ここに一味を率いて帰朝し、 逞なるブルジョアの逸楽遊惰と驕慢を見るに忍びず、 多年米国において奸悪なる富豪を排撃しこれと闘争し して、本日以後強盗、殺戮、 貪婪なる政商、 最近、 脅迫、 母国日本における一部 不義不正なる政治家等 凌辱、 淫虐なる上流子女、 国内の同志と呼応 彼等の罪悪

総監閣下、を膺懲殲滅せんとす。

外人と不義を重ね乱倫連夜、醜を内外に晒せるモガと神の血祭に供したるは、若き名流夫人にして、しかものみ。従って我等は閣下及び閣下の部下に対して挑戦のみ。従って我等は閣下及び閣下の部下に対して挑戦のか。従って我等は閣下及び閣下の部下に対して挑戦のか。従って我等は閣下及び閣下の部下に対して挑戦のからば、大等は法律と道徳を無視せる彼等に対するに犯罪を以てする。

称する人種なり。

総監閣下、

治安問罪の責は閣下にあり。 閣下よく備えられよ。

世界白狼

薄葉の紙には極めて薄く白狼の首が浮出 Mのマークがドス黒い血で富士山型に記してあっ 団長 しに印刷して 東洋 :無宿

あり、

ウト ム と総監が唸った。「 何んじゃこのガング

は?

です」と坂上刑事部長が説明した。「東洋流の正義を標 首にかけられているという恐ろしいメリケン・ジャップ かけて米富豪連を脅かし、官憲から十万弗の賞金をその 「シカゴからニューヨーク、あるいはテキサスを股に 富豪上流社会を荒し廻る強盗殺人団です。 ジム

東洋無宿といっていますが、米国支那 を部下として血みどろの怪腕を振う犯罪王の一人。自ら は怖え上るという兇漢。支那人、日本人、 ムシュク! 日の某米富豪一人息子を誘拐して百万弗を強要し、 ホワイト・ウルフ! と聞いただけで米人 あるいは白人 の王者です」

> 不敵のジム・無宿! 手で脅迫して指輪、 首飾等の宝石類を山と強奪した大胆 またある時シカゴの殺人王オバニ

のように隠れ、射撃の合間を見て突然敵前 オンと争って、オバニオン一味のために機関銃 斉射撃を受けた時、 乗合わせた自動車の 反対側に飛鳥 三尺の 0 に猛烈な 処へ

立ち上って、機関銃口を睨みつけながら、 「そんな南京玉が当ってたまるけえッ!」

を鏖殺にして、以来メリケンガングから治外法権となっ 叫ぶと同時に恐ろしい爆弾を相手に叩きつけて襲撃隊

たという不死身の白狼無宿 いう所は不良モガに対する廓清の迫害だ。不正富豪に それが今日本に現れた!

て、 対する矯正の脅迫だ。 犯罪を、しかも大それた犯罪を黙過することは出来 しかし、治安のための警視庁とし

犯罪のための犯罪、 況や総監に対するこの挑戦状 犯罪の享楽者、

米国を荒した怖る

き白狼団、 さすがの鬼総監青山氏も思わず全身に走る冷感を覚え 東洋無宿の日本来!

ざるを得なかった。 ウーム、いよいよ現れよったか、 白狼団!」

と総監は再び呟いた。

組織する人肉市場のナイト・クラブへ単身乗り込み、素

て送り返した白狼団!

あるいは一

流の映画スター連で

差し向けられた警官隊と激戦した末、その少年を惨殺し

輩が。日本警視庁の威信を、今にハッキリ見せてやる」クの如きとはいささか違う。正義を気取る不敵のガング 躍を喰い止めます。何の神都東京はシカゴやニューヨ 「総監!」と坂上部長が叫んだ。「白狼団でも東洋無宿 日本へ来た以上、我々死を以てしても彼奴等の活

「ウム」と総監は肯いた。「それにしても、どうして

書斎へ忍び込んだのじゃろうか?」 問われるまでもなく恒川警部は刑事を指揮して賊の忍

び込んだ足取りの発見に努力していた。

けられない。 いたし、裏に面した窓も堅く閉っていて、外からでは開 廊下へ通ずる扉は一つで、これは完全に鍵がかかって

もなかった。 戸外廻りを詳細に調べて見たが、そこにも何等の発見

何思ったか庭にきゃたつを立てて回転窓を調べ始めた。 「きゃたつを持って来い」と恒川警部がいった。 「どうしても解りません」と刑事が太息をついた。 彼は

えになりましたか?」

閣下」と彼がいった。「ここの窓硝子は最近おはめ換

「いや、手をつけない」

その窓?」 解りました。この窓からです」

> す。つまりパテを削り落して、硝子をはずし、 「ハア。窓硝子が一枚、新しいパテで嵌換えてありま 窓をあけ

て忍び込んで……」

「その窓から、大人が入れないじゃないか」

しょう。子供を室内に入れて、下の窓を開けさせて用意 の品を卓子の上へならべ、窓をしめて、はずした硝子を 「子供なら入れます。支那曲芸の子供でも使ったので

パテで塗り込んで行ったものです」

「フーム、周到な手口じゃのう……して小指はどうじ

と総監が坂上部長に話しかけた。

ゃ

た事のない指です、ひどい事をしたものだ」 です、マニキューアも行き届いていますし、仕事などし 状態から見ますと……そして妙齢の娘ですね、 切断後それほど時間が経っていませんね、 Ш. 奇麗な手 の凝固

た。「それにしてもこの件は極秘として手配するように 上げて、十分に協議する事にしよう……」と総監がいっ 「とにかく、ここで調べる事がなければ、 役所 へ引き

る脅迫か、 刑事一人を残して一同は警視庁に引き上げた。 白狼団の襲来を伝える脅迫状、よしんば、それが単

悪戯にしろ、既に女の生々しい切断小指が添

付してある以上、決して軽々に看過することは出来なか

った。

署に飛んだ。刑事は八方に散った。行衛不明の夫人はな いか。富豪の家庭を探索し初めた。 は切断された小指の主の捜査である。秘電は全市の警察 何等手懸りのない犯人の探偵よりも差し当っての急務

の宣言を実行するかもしれない。 しかも警視総監邸へ忍び込むほどの怪賊、 あるいはあ

なった。 とにかく全市、 郡部を加えて非常警戒がしかれる事に

波がくずれて行く。

まる円タクの洪水、その波をわけるようにして観客の人

があるが、ただ漠然とした非常警戒では、とかくに気分 らば、そこに確然とした目的があり、 のたるみがあった。 るいは特殊犯罪のための犯人捜査とか、追跡とかいうな しかし非常警戒とはいい条、これが年末の警戒とか 張合があり、緊張 きあ

は都の夜を血に染め出した。 果然、その夜、 恐るべき宣言は実行されて、 白狼無宿

## 刺青の怪兇

春藤会が開かれた帝国ホテル演芸場の前に、群がり集歌舞伎に、または邦楽座に武蔵野館に、あるいは舞踊 舞伎の前に東劇の前に、帝劇の前に、 その夜だった。 更けて十時を過ぎて劇場のはね時、 あるいは明治に新 映画の はね時。

歌

5 うるさくつきまとう円タクの群をのがれ、場内の温気と スーと音もなく傍へ寄って来たビックのセダン、 秘密の愛人との恋の一夜にほてった顔を涼風に冷しなが 奈美子は連れ立って来た男爵綾小路夫人美子と別れて、 ホテル演芸場を出た実業家千万長者柿沢舜吉氏の夫人 ホテルの横を通って日比谷の通りへ出ようとした時

上品な三十歳位の運転手が物なれた調子でいった。 「そうね」 奥様いかがです。半タクで参ります」

奈美子夫人はつい立ち停った。 **゙**どうぞ!」

ドアを開けた。 助手が早くも飛びおりて訓練されたバトラーのように

「品川台大崎まで……」

日七谷から曽上寺方面へ一直泉こ長)出した。夫人は引き込まれるように自動車に乗った。自動車は

緊張したつかれか、心持よい車の揺にさそわれてか夫日比谷から増上寺方面へ一直線に走り出した。

人はウツラウツラと居眠り初めた。

車は薩摩原を横に切れて次第に暗い坂道にさしかかっ何故か運転手と助手とは顔を見合せてニヤリと笑った。運転台の窓に取りつけた鏡に映る夫人の居眠り姿に、

った。 た。四辺は大邸宅ばかりで犬の子一疋の姿さえ見えなか

はもう身体の自由を失って抱きすくめられていた。急に綿のようなもので圧迫され、ハッと眼をさました時とたんに何かしらサッと身体に触れたと思うと鼻と口を夫人はスヤスヤと夢を見るほどの仮睡に陥っていた。

「静かにしろッ!」

「ウッ!」叫ぼうとしたが及ばない。

もがいたが、大鷲に捕われた小雀のどうすることも出来夫人を押えつけていた。夫人は一生懸命逃れようと身をいつの間に変ったか、運転手が恐ろしい眼を光らして

なかった。プンと異様の臭が鼻をつく。

うとした。 「麻酔剤!」と覚って夫人は首を左右に振って逃れよ

うとした。

も出来ず、夫人の意識は次第に混濁してきた。やがて力がそれも一分二分……強烈な薬の力にはどうすること

なくガックリする。

手がいった。
「どうだい」運転手に代ってハンドルを握っていた助

ようか」
「テヘッ、簡単に片付いたよ。さあ、早い所やっ

つけ

類を奪って、ポケットへ捻じ込んだ。彼は奈美子夫人の身につけた指輪、首輪その他の宝石

「それから?」

助手は運転しながら前の鏡に中の様子を映しながらい

「親分申付けの例の手だ」

った。

自動車は人通りの絶えた暗い道を選んでのろのろと進昏酔している夫人の上へ覆いかぶさるように近づいた。窓の幌を静かに降すと彼は仰向けにクッションの上に

んでいる。

O K

「済んだか?」

「済んだ」

助手は鏡の方向を少し動かした。

して、死んだようにクッションに横わっている夫人の姿。 とその鏡に映ったのは艶かしい長襦袢しどけなく現わ

そしてその白蠟のような顔

頰に浮び出た赤紫の汚点! しかもただの汚点ではない。 アッ! その顔。その頰に! 見よ、無惨や白美の右

「どうだい、俺の刺青の手際は?」

車内の男がしゃがれた声でいった。

「むげえなあ、でもこんな女の頰を刺りゃあ、すげえ」

助手はため息をした。

ったって取れねえからなあ」 「アッハハハハ役得だあね。……このマークだけは洗

特殊の文字の刺青だ。針で刺した跡に薄く血がにじんで はいるが明かに読める文字。その文字はたった一字…… い刺青だった。悪戯の刺青ではない。凄い目的を持った マーク! そうだ、赤紫の汚点は刺青も刺青、恐ろし

白狼団 ! 東洋無宿

告状を叩きつけた怪賊白狼団ジム・無宿を記憶されてい るであろう。残忍無類、 読者は既に今朝、 警視総監宛に怪奇な凄惨な脅迫と予 大胆不敵の世界的大兇魔団白狼

団の団印M! そのM

さては早くも現れたか白狼無宿 「おい用事がすんだら、早い所片付けちまおうよ。

だ一方の仕事があるんだ」

と助手がいった。

「OK。一筆、命により書き残して行こう」

兇漢は名刺型の紙を出して、何事か認めると、それを

夫人の襟にピンでとめた。

停った。 自動車は通りかかった大邸宅の薄暗い門の傍に静かに

の上に塀へよりかからせて横たえた。

無言のまま二人は夫人を抱きおろして、

塀の前の石畳

「フフフ」二人は残忍な笑いを洩した。 「正気づいたら、生きちゃあいられめえ」

がるだろうなあ」 棄て辞を残して、怪自動車は、爆音も静かに夜の町 0

警視庁の総監初め坂上、恒川、目をむいて驚きやあ

暗へスーッと消えて行った。

でも捺され、路傍に棄てさられたのも知らず、 あわれ兇魔の弄ぶ所となって、拭う事の出来ない烙印まあわれ兇魔の弄ぶ所となって、拭う事の出来ない烙印ま 性の浮薄享楽者であって、淫楽にふけっていたとはいえ 千万長者柿沢舜吉氏夫人奈美子、い かに彼女が現代女

麻薬に酔

ま

然に閉ざされた。

それから数分の後の

はしんしんと更けて行った。 わされて昏々と生死の境をさまよっている。 大東京の夜

### 殺人夜魔

のビルディング街は悪魔の街のように死の静寂に包まれ 大東京の夜はしんしんと更けた午前二時、 丸ノ内一帯

それが通り魔のようにフッとMビルディングの巨大な陰 影の中へ消えた。とまた一つ通り魔が……また一つ、ま た一つ、……次々にフッと現れては消え、消えては現れ の街燈の下へ音もなく浮き出た黒い影があった。 イング、その谷間に僅かに卒塔婆のように光る街燈。そ 黙々として墓石のように暗い空に真黒く突たつビルデ しかも

二つ三つ四つ五ツ……パックリ開いていた墓場の口が自 ン グの地下室の一つがパックリ黒い口をあけていた。 通り魔の姿が風のようにその口へ吸い込まれた。 日本の二大銀行の丸ノ内支店を擁しているMビルデ 0 1

へえ、一人は今日休んでますんで……\_

Mビル守衛室の扉がスーッと開

えて戻ったばかりの守衛が入口へ振り向くと同時 「オヤッ」と思った守衛の一人が……丁度見廻りを終

アッ! 賊だッ!」

静かにしろッ」

5 底力のある凄い声。ピストルが三挺、 ヌッと突き出されると一所にドヤドヤと入って来た 入口 の扉の影か

三人の壮漢。 お定りの覆面。 猟服に身をかためて赤皮の長靴の身仕

度もガッチリしている。

強盗ッ!」

ダッ! と一閃の火花

アッ!

た同僚の姿を見ては声も立て得ずに立ちすくんだ。 声と共に驚いてはね起きた守衛三人。その足元に倒 れ

三人の守衛は手もなく縛り上げられてしまった。 見廻りに出ている奴はないか」

一静かにしてろ。騒ぐと命がねえぞ」

ありません」

嘘をつけ。五人いるはずじゃあねえか」

突嗟に答えた守衛の一人。彼は今館内見廻りに出てい

足を打たれて倒れた守衛の足の傷を手早く手当をすると、 る同僚にせめてもの望みをつなぐべく際どい機転だった。

四人が四人共厳重に縛り上げて猿ぐつわを嚙ませた。

行こう」

三人の壮漢が出ようとした時

暗の廊下で声がした。 「念のため一人残れ」

それから一分後。

塊が五ツ金庫の前に動いた。 M銀行の大金庫の前に丸い光がサッと流れると、

開けろッ!」

二人ずつ双方に別れると真中へ突きのめされた男があ

だった……は真青な顔をして慄えていた。 四方から突きつけられたピストルの中に、 男……青年

開けろッ!」

錆のある声が威圧するようにガランとした室内に響い

金庫の鍵穴とそしてダイヤルが丸い光の中にボッと浮

青年は慄える手でダイヤルを廻した

声のない幾十秒。

一フーッ」

照された金庫内の札束の山は、 太息と共に大金庫の扉がサーッと開いた。懐中電燈に いくつもの手で忽ちに崩

った若い守衛の一人が、階下に起った異様な物音に、急 されて行く。 丁度その頃、一人兇漢団の眼を逃れて五階見廻り中だ

いで守衛室に引返して来た。

彼が守衛室に一歩踏み入れるや否や、張番に残された

賊の一人がやにわにピストルをつきつけたので、ハッと した彼はいわれるままに両手をあげて壁に向って立った。

賊は彼の背後に廻り、彼の両手を後ろへ廻わさせピスト

リ身を一転して激しい体当りを喰わせ、 かけてあった小さい鏡に映して賊の油断を見澄すやクル ルをポケットに収めて腰縄をとり出した。が守衛は傍に 賊のよろめく隙

ウヌッ!」

にやにわに組み付いた。

ストル争奪に猛烈にもみ合った。 がポケットにかかる。ピストルを握られては一大事。ピ りかかって寝業で賊の喉をしめにかかったが、 身体をひねってわずかに耐えると、強引に刈ぎ倒し、乗 敵もさるもの、組みつかせて猛烈な跳腰、若い守衛は 敵の右手